



## 北京あれこれ

北京では、銀行やスーパーの入口でよく、警察でも軍隊でもない出で立ちの警備員が立っているのを目にします。日本でよく見かける警備員と違って、その殆どは10~20代の若者で、多くは出稼ぎで来た農村出身者と言われます。銀行の中で立っている警備員は、防弾チョッキを着て警棒を持っていて、それなりに威圧感を感じます。ATMの現金を移し替える作業の時は、現金輸送車の前で、迷彩服を着てヘルメットを被った警備員（殆ど兵隊に見えますが）が立っています。ライフル銃を構えているので、初めて見る人は、かなりの威圧感を感じると思います。ここまでの装備ではなくても、ビルや住宅区域の入口など、人の出入りがある場所には、ほぼ警備員が配置されています。国情の違いからか、或いは首都だからかも知れませんが、北京では特に警備員の数が多いと感じます。

最近少しずつ増えているのが、交差点の角に立って、交通整理をする誘導員です。こち



らでは、信号が変わるのを待たずに道路を渡る人が多いです。無視して渡ろうとする通行人と、大声でそれを制止しようとする誘導員との間でせめぎ合いもあります。中国の道路は自動車優先なので、車が近づいてきたら、歩行者は、横断歩道を渡っている間でも道を譲るしかありません。通りを渡っている間も常に左右に注意を払う必要がありますが、日本とは車線が反対なこともあって、これに慣れるのは意外に難しく、未だに中国人の後ろについて渡ると楽に感じます。たくさんの人が道を横切るのを見ていると、歩行者優先にすると逆に車がスムーズに走れなくなるから車優先になっているのかとも思えてきます。

外では、清掃員の姿もよく目にします。特に北京は、建物が大きい上に、空気が埃っぽくすぐ汚れるので、きれいに保つには相当人手が要ると思います。さっきの警備員と比べると年齢層は高めです。ちなみに、中国では、男性が

男性トイレを、女性が女性トイレを掃除しています。女性の清掃員が、男性トイレに入ろうとする時は、ロックして誰もいないことを確かめてから入るのを目にします。また、日本に旅行に行った中国人男性が、女性が男性トイレを掃除しているのを見て驚いたり、温泉の男湯に入っていたところ、女性の清掃員が普通に入って来てびっくりしたということもあるようです。



今の中国の若い世代を表す言葉として、80后（バーリンホウと読みます）という言葉があります。一人っ子政策が始まった後に生まれた80年代生まれの世代を指す言葉で、今の20代にほぼ相当します。その殆どは一人っ子で家庭で大事に育てられ、改革開放で経済が発展し始めた頃に育ったことなどから、それまでの世代とは違った特徴や感性を持っていると言われていています。上の世代からは、わがまま、利己的、冷めている等々、ネガティブな見方をされることも多いようですが、流行に敏感、現実的、個人の意識が強いといった見方もあるようです。また、大卒者の割合が高い、インターネットへの適応性に優れている、外国からの製品、文化に寛容とも言われ



ます。中には、日本人以上に、日本のアニメやドラマに詳しい人たちもいます。

普段の生活で接する80后の人たちを見ても、確かに思い当たる点があります。80后の中にも色々な人がいるので一括りにはできませんが、その上の世代の人たちとの違いは確かにあるように思います。上の世代の中国人と比べると、その考え方や行動様式は、同じ年代の日本人と共通するところが多いのかも知れません。

より若い世代を指す90后（ジウリンホウ）、00后（リンリンホウ）という言葉もありますが、とりわけ80后は、それまでの世代との差が大きいと捉えられていて、今の若い世代を代表する言葉のように使われています。その数は2億人を超えると言われます。こうした若い世代が若い歳になった頃に中国がどういう国になっているのか、とても興味深いです。

### 筆者紹介

#### 門脇 学（かどわき まなぶ）

弁理士。LONGMA特許業務法人所属。  
1998年、新樹グローバル・アイビー特許業務法人入所。  
主に日本企業の国内外の出願、権利化業務を担当。2007年より中国に滞在。現在、GIP China Corporation（GIPグループ北京オフィス）において、出願業務のほか、中国国外の企業の中国出願に関する連絡業務などを担当。